

INDEX

| | |
|-------------|-----|
| 新春の集い・賀詞交換会 | 1～2 |
| 臼井先生寄稿 | 2 |
| 会員企業訪問・様みつわ | 3 |
| 朝食例会報告 | 4 |
| 会員異動/スケジュール | 4 |

新春の集い・賀詞交換会



今期の新春の集いは、親睦委員会の運営のもと、「新春の集い・賀詞交歓会」として執り行いました。司会は木下副幹事長と岩田直人氏がつとめました。阿佐会長の肝いりで、会外から多くのご来賓やビジターを招き、会員60名、来賓7名、ビジター5名、総勢72名の参加数となりました。

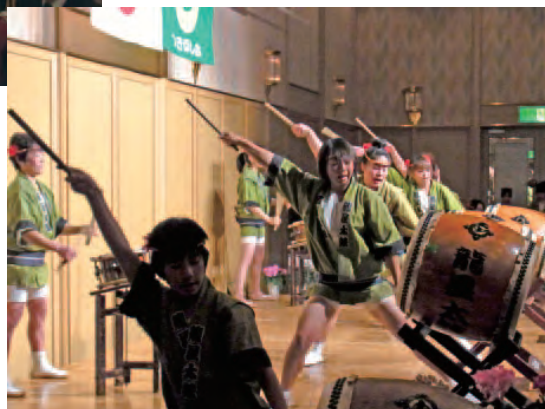
定刻になると、壇上にスポットライトが当たり、新春に相応しい太鼓が響き、一気に会場が正月らしくなりました。

司会者の開会挨拶のあと、阿佐会長、続いて臼井日出男先生のご挨拶をいただきました。来賓の方々は、新年会シーズンということで、定刻に揃わなかったものの、松野博一衆議院議員・猪口邦子参議院議員・神戸睦也商工会議所青年部会長からそれぞれご挨拶をいただきました。

そして、祝電、ビジター紹介と続き、お待ちかねの乾杯。岩田直前会長より乾杯のご発声をいただき、歓談が始まりました。

今年の出し物は、池田親睦副委員長の地元で、活躍されてる流星太鼓です。地元のお祭り・親子三代祭りなど、出演された太鼓だそうです。春らしく沢山のお花で飾られたステージで、太鼓のリズムに乗った素晴らしい演奏が披露されました。太鼓演奏の余韻の中、会員である紺谷氏による津軽三味線の演奏、津軽の深い雪を思い出す調べに酔いしれた、これまた素晴らしい演奏でした。

食事も一段落した頃、他の会に出席していた会員の、市議会議員の先生方が駆けつけ、4月の統一選挙向けの熱い決意を述べていただきました。プレゼントコーナーでは朝食例会で恒例の誕生日



のお花プレゼントが行われ、1月の誕生日該当者に花束贈呈されました。また福引ではお花を中心に沢山の景品が配られ、外れた人にも参加賞として鉢花が贈られました。最後に加藤副会長より閉宴のご挨拶をいただき、月星会平成23年度新春の集い

は、無事幕を閉じました。

この新春の集いは、親睦委員とともに役員の皆様のご協力を得て、無事に終了することが出来ました。紙面を借りて御礼申し上げます。

(親睦委員長 栗原 勇)



特別寄稿

誇り高い日本人をみた — 東北関東大震災に思う —

前衆議院議員 白井日出男

まずこの度の大震災で亡くなられた方々に心からお悔やみ申し上げますと共に、被災された皆様にお見舞い申し上げます。

この大震災で改めて感じることは「大自然の力は人知を超える」と言うことです。

マグニチュード9.0という巨大地震への驚きもさることながら、発生から僅か20分程度で津波が襲ってきたその津波襲来の早さ。四階のビルが冠水するような巨大津波の現出は専門家の予測を超えていて、避難所に指定されていた施設にたどり着いた住民も被害にあったことはお気の毒で言葉もない。

私は日頃から最近の日本国民は「日本人としての誇りを失っているのではないか」と、挨拶の中で苦言を呈してきた。しかし今回の大震災での直接被害に合われた方々の、冷静な健気な対応を知って、“人の誇り”とは、普段ひけらかすものではなく、極限に至った時にいかに現れるかが大切で、その意味からは「日本国民は本当に誇り高い民族」だと改めて感動した。被害者の中には、警察官が50名を超える死者を出しているし、消防団員や役所の職員や介護施設の職員の最後まで自らの職務に尽くして亡くなった多くの方々の報道を知るにつけても、誠に痛ましく、しかし改めてその英雄的な動きに対し敬意と感謝の気持ちを表したい。また福島原発の内部に留まって身を挺して闘う50名の東電職員や燃料保管庫に放水作業を行った自衛隊員、消防職員の英雄的な活動に対しても敬意を表したい。ただその後発生した福島原発の事故は、自然の猛威を

甘く見た“人災”の面が強いので、誠に残念でならない。と共にかつて国の政治家として働いた者として、誠に申し訳なくお詫びを致します。さて地震発生当日の夜の政府の発表でも、「福島原発に被害はなかった」と発表している、重油タンクや発電施設が全て流されてしまっていることは当然報告があったはずだが、原子炉館屋そのものがそのまま残っていたためなんとかこの被害を国民に知らせないで処置できるのではないかという安易な判断が初期対策の遅れを招いたと思い、その隠蔽体質と政府の命令系統のあやふやさが責められる。元より「津波で電気施設の被害が出たときには次にはどのように対処すべきか」という基本的なシミュレーションがなかったことは、人類の“驕り”の他のなにもものではない。原発事故の被害はますます広がっており、本日3月23日現在、やっと外部電源が繋がった状態なので、今後の予測は予断を許さないが、何より幸いなのは、引き続き大地震による新たな大津波が発生していないので、原発事故対策が着実に進められる環境にあるということだ。大津波が起きるような大地震が発生しないように祈りたい。

私が一番心配したのは、今回の地震で兼ねてから発生が予測される「東海、東南海地震」の連鎖的な発生だった。静岡県には浜岡原発があり、当然、今回のような津波による原発周辺施設の損壊が予測されるので、今回の地震被害の救済と同時並行的に対策を進めてもらいたいと願う次第です。いま今回の日本の原発事故を世界が注視している。日本のように石油を海外に頼らなければならない国では原子力発電は避けて通れない課題たと思う。今回の原発事故を今後の大きな参考にして、日本国民全ての問題として進んでいかなければならない。我々日本国民は必ずや今回の国難を克服することが出来ると思ふ。

第5回 株式会社 みつわ

強みを伸ばして、着々と明日を築く

「個人情報」と「環境」を柱に、印刷不況を克服!

みつわの強みと自信

印刷不況が続いている。倒産や廃業も少なくない。(株)みつわは、印刷業である。しかし、同社に暗さはない。厳しい経営環境にあることは、みつわとて例外ではないが、社長の尾形文貴の話は終始前向きだった。

「厳しい状況は他の印刷会社と同じです」と言いながらも、「御社の強みは？」との質問に、尾形は間を置くことなく歯切れよく答えた。

「現在の強みといえば、一つは個人情報を主体にした印刷です。団体の名簿など個人情報を含んだ印刷物を扱う場合、発注側が一番心配するのが情報の漏洩ですが、わが社はその点で信頼されています」

美浜区新港の本社に訪れた際、出入口のセキュリティにやや驚いた。監視カメラにガードされているなど他の印刷会社にはない厳重さである。

事務所も現場も24時間、カメラに監視されている。社員一人ひとりについても、入退出のみならず業務プロセスのチェックシステムも構築されている。

ハード面だけではもちろんない。社員に対する意識面の教育もしっかり行っている。「内部から個人情報が漏れることは絶対にありません」と、尾形は自信を見せた。

かなりの負担とコストのかかる「プライバシーマーク認証」も平成19年に取得している。県内の印刷会社としてはまだ数少ない例だ。

強みはまだある。

短納期でワンストップ型の受注ができること。また、オンデマンド技術の導入より、100部、200部という小ロット印刷を可能にしたことなどだ。

ワンストップとは、入稿から製本、さらに個別ユーザーへの発送まで、みつわが一括して行う受注システムである。発注者側としては、発送などの後工程を自社で行ったり、他の会社に依頼するといった面倒さがなくなる。

さらに、尾形は笑顔でもう一つの強みを強調する。

「小回りが利くというか、発注者のわがままを受け止めてどんな要望にもできるだけ応えるという点も強みですね」

これは短納期など他の強みにも関連しているが、みつわの基本姿勢でもある。自社の事情ではなく、お客様の事情優先で仕事を受けるという顧客志向の姿勢だ。

同社はこうした自社の強みを、印刷不況が深刻になる前から意図的に創り上げてきた。特に6、7年前、それまで売上シェアの高かった官公庁関連の仕事が減少し始めた頃から、「官公庁に依存しない」受注構成を構築すべく早め早めに手を打ってきたのである。



先代から様相が変わった顧客層

実際、みつわの取引先は先代(実父の尾形祇文前会長=故人)の頃と比べるとだいぶ様相が変わっている。先代の頃は、川鉄(当時)、東京ガス、東電など県内の半官半民の大手企業や官公庁などで大半が占められていたが、尾形の代になってからは、中小の民間企業、ホテル、病院、税理士会等各種団体など多種多様な顧客になった。特定の企業や分野に依存するリスクを避けた経営施策といえよう。

この方向転換は、尾形が先代の経営方針を批判的に見たからでは、決してない。時代の流れを冷静に見詰めていた結果である。

先代は戦後、ガリ版刷りの家内工業から始め、徐々に大手企業の市場を開拓。従業員30余名を抱える千葉県では有数の印刷会社にまで成長させた。尾形は、この父親の経営手腕を高く評価している。

「中学の頃から仕事を手伝い、父親の背中を見て育ちました。中学生の時から後を継ぐと決めていました」

大学卒業後、すぐに会社に入ったが、数年は後継ぎであることは明かさず、営業に勤しんだと言う。

尾形が先代から事業承継したのは、平成7年である。すでに神明町から美浜区に移転して10年近く経っていたが、この工場移転も先代の慧眼だったと尾形は話している。

「バブル景気の直前、昭和61年に1000㎡の土地を購入して移転したのですが、翌年から土地の値段が急騰しましたからね」

この先見の明が、後継者の尾形にも受け継がれているのである。

尾形は今、「これからのみつわ」を考え、GP(グリーンプリンティング)認証の取得にチャレンジしている。GPとは、環境に配慮した印刷の総合認定制度で、日本印刷産業連合会が制定する環境自主基準である。みつわは、平成21年に品質管理の国際基準「ISO9001」を取得しているが、同環境基準の「ISO14000」の代わりに、印刷業特有の環境基準であるGPの認証を選んだのだ。もちろん、印刷業にとってGP取得のハードルは高い。

しかし、尾形は次代のみつわを築いていくためには必須の認証だと考えているのである。

プライバシーマークを取得した時のように、みつわは厳しいハードルを越えてGPを取得するであろう。

また大きな強みが同社に加わることになる。

(取材・文責/奥平。文中の敬称は省略しました。次回は尾形文貴社長の紹介(桜木観光を予定しています))

委員会活動報告

朝食例会2月度報告

平成23年2月12日(土) ホテルグリーン・タワー幕張

東日本巨大地震で被災された皆様にお見舞いを申し上げます。

2月度朝食例会は、前日に雪。開催が危ぶまれましたが、無事に開催することが出来ました。そして、3月度は、冒頭触れた地震により急遽中止となりました。自宅に会場側から電話があったのが20時過ぎ。それから参加予定者に中止の連絡を取るのが大変困難な中、お手伝い頂いた役員各位のご協力に、感謝を申し上げます。連絡の行き違いで万が一会場に向かわれた会員さんがいらっしやいましたら、この場を借りてお詫びを申し上げます。

さて、2月度朝食例会は、講師に株式会社加藤会計事務所 代表取締役 加藤 武人氏をお迎えし、「不況を乗り切れ！中小企業の防衛術」と題してご講演を頂きました。目に見えない部分の中小企業政策やグローバルな視点でのお話しに、企業家ではない私も興味深く学ぶことが出来ました。

4月度の例会は、4月9日(土)となります。お誘いあわせてのご参加をお待ちしております。

(例会委員長 臼井正一)

ミニ研修会 紙上作品展

昨年12月に開催したミニ研修会で制作したものです。



A

B



C

D

E



F

G

H



I

J

K

大震災へ会の善意を拠出しました

月星会会長 阿佐幸雄

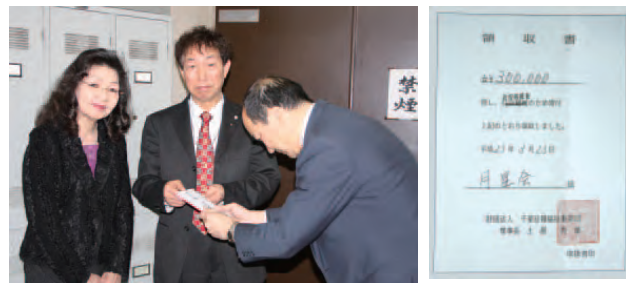
3月11日午後2時46分に宮城県沖を震源とする大地震が起きました。その後発生した大津波によって青森県から千葉県にかけて、太平洋岸に特に大きな被害が発生しました。幸いにも月星会の会員企業・ご家族は、被害を受けられたという話を聞いておりませんので、大きな被害はなかったものと思います。

さて、毎月開催している朝食例会の受付で、参加者の善意を集めている「ふくろう募金」が、2007年8月の中越大地震への寄付以来行っておりませんので、47万円余りになっています。役員の皆様にお諮り致しましたところ、「ふくろう募金」からの支出にご賛同いただきました。

金額につきましては、他の団体への寄付等もございまして、過半数の30万円とさせていただきます。

早速、3月23日千葉日報社経由で寄付をいたしました。

日ごとに被害の拡大が伝えられています。死者不明者が2万2千名を超えるとの報道もあり、被害総額も19兆円とも25兆円とも言われています。本会からの支援だけでなく、会員の皆様からもご支援下さるようお願いいたします。



4・5・6月のスケジュール

| | | | |
|---------|------------|---------|--------------------------------|
| 4/6(水) | 役員会 | 18:15開会 | プラザ菜の花 |
| 4/9(土) | 定例朝食会 | 7:00開会 | 参加費 2,000円 会場: ホテルグリーンタワー幕張 |
| 4/16(土) | 第2回経営研修会 | 18:15開会 | 講演会は無料 会場: ホテルグリーンタワー千葉 |
| 5/11(水) | 役員会 | 18:15開会 | プラザ菜の花 |
| 5/14(土) | 定例朝食会 | 7:00開会 | 参加費 2,000円 会場: ホテルグリーンタワー幕張 |
| 6/4(土) | 平成23年度定時総会 | 18:00開会 | 会場: ホテルグリーンタワー千葉 |

会員異動 退会

竹口満代氏 元 シャンドール 退会理由 私事
大谷 隆氏 ㈱ジェットラインワールド 代表取締役 退会理由 私事

編集後記

東日本大震災の発生から2週間を経過しました。千葉県内でも旭市をはじめ被害に遭った地区は少なくありません。月星会会員の事務所や工場などもある新港地区では液状化現象も起きています。また、親戚や友人知人が被災されたという会員もいらっしやと思います。被災された皆様には衷心よりお見舞い申し上げます。

臼井先生からは、すでに今号の原稿をいただいておりますが、先生のご要望で急きょ印刷直前に「特別寄稿」に差し替えました。大震災前にいただいた原稿のまま掲載している記事もありますが、被災者の方々への思いは、この編集後記にて代表させていただきます。お見舞いを申し上げます。

私たちは、今できること、やるべきことを、精一杯の元気を出して行っていくなかと思っています。前に進んでいきましょう。前に進んでいく一人ひとりのエネルギーが、きっと復興の道につながっていくものだ確信します。「がんばれ、ニッポン!」の合言葉を心に抱きつつ、元気に前進しましょう!
(産方)